

連携医院のご紹介

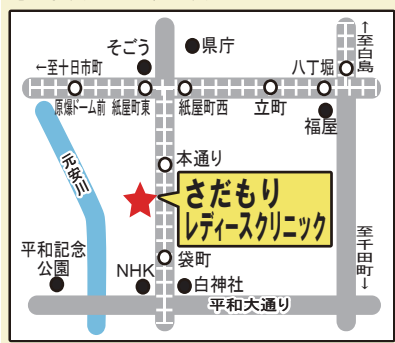
今回は、広島市の中心部において、全ての女性が心安心できる医療を目指している「さだもりレディースクリニック」の貞森理子院長に伺いました。



貞森院長

さだもり レディースクリニック

〒730-0051
広島市中区大手町2丁目7-2ウエノヤビル4F
電話/082-242-1132
院長/貞森 理子
診療科/産婦人科



○いつ開業されましたか。

産婦人科医であった父の背中を見て育ったこともあり、福岡大学病院、麻生飯塚病院などで産婦人科医として研鑽を積ませていただきました。その後、広島に戻って参りましたが、ご縁があった椎野萬里子先生のクリニックを託される形で、平成24年に継承させていただきました。継承時に、勤務医時代に慣れ親しんだ手術現場を離れることに悩みましたが、「患者様により近い立場で悩みが聞ける開業医になりたい」という思いが打ち勝ちました。

○開業されてから今までのことを教えてください。

育児中でもあったため、継承当時は大変忙しい思いをしましたが、残留してくれた女性スタッフの支えにより乗り切ることができました。また、診察が迅速・的確にできるよう、当院のスタッフは、患者様が思いを伝えやすい雰囲気づくりにも努めており、スタッフには感謝の気持ちで一杯です。

○開業のやりがいは何ですか。

患者様から「ありがとう」の声をいただいた時や、人と人のつながりの中、幼児が小中学生と成長する過程を共に歩むなど、女性の一生に関わっていける所に、やりがいを感じます。また、現

在の業務が繁忙なため、直ぐに実現することは難しい所ですが、将来の夢として、通院が難しい高齢者への訪問診療に加えて、実家が島の開業医ということもあり、過疎地域での診療に取り組みたいと思っています。

○県病院はどんなところですか。

診療予約時の丁寧な対応に加えて、救急搬送のお願いをいつも快く受けていただき、有難く思っています。また、KBネットによる「診療データ・画像の閲覧」を活用させてもらっていますが、特に入院等により、一定期間お会いできない患者様の状況を詳細に把握できる事は、極めて有益と感じています。



さだもりレディースクリニック外観と(左)友人からプレゼントのフィギュア&学生さんからデザインされた名刺

【取材後記】

医師とスタッフのチームワークにより、地域に長年住んでいる高齢者から社会人・若年層までの幅広い世代の女性患者様のニーズに応えることができるクリニックと感じました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

南4病棟

呼吸器センターのご案内

肺がんをはじめとする難治性疾患の症例数は急速に増加していますが、近年では画像診断・分子病理診断・抗がん剤治療・放射線治療・手術治療などの高度な医療の進歩によって治療成績が大きく向上してきました。当院の『呼吸器センター』では、各専門スタッフが丸一となって最先端の呼吸器疾患に対する診療を提供し、患者さんの状況に応じて専門チームがサポートします。

呼吸器センター

呼吸器内科
呼吸器外科
リウマチ科

栄養サポートチーム
摂食嚥下チーム
感染対策チーム
緩和ケアチーム

- ・医師
- ・看護師
- ・薬剤師
- ・管理栄養士
- ・理学療法士
- ・臨床工学士
- ・ソーシャルワーカー
- ・心理療法士

対象疾患

- ◆ 胸部悪性腫瘍
(肺がん、転移性肺がん、縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫)
- ◆ 間質性肺炎
(特発性間質性肺炎、膠原病関連肺疾患、など)
- ◆ 自然気胸(特発性、続発性)
- ◆ 慢性閉塞性肺疾患
- ◆ 気管支喘息
- ◆ 肺炎
- ◆ 膠原病

治療

連携

他の診療科 外科治療・放射線治療・緩和的治療

県立広島病院からのお知らせ

緩和ケア 看護師研修 基礎コース

開催日 平成29年8月8日(火)・8月9日(水)の2日間
時間 9:00~16:30
場所 新東棟2階 総合研修室
申込締切 平成29年6月27日(火)・7月11日(火) 必着
受講料 5,000円(資料代)
対象 次の要件をすべて満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者
①県内の医療関係機関等に勤務する保健師、助産師、看護師、准看護師
②現在緩和ケアに携わっている者、又は近い将来携わりたいと希望する実務経験年数3年以上のもの

緩和ケア 介護支援専門員・地域連携職種研修 基礎コース

開催日 第1回 平成29年7月11日(火)・20日(木)の2日間
第2回 平成29年7月25日(火)・8月1日(火)の2日間
時間 9:00~16:30
場所 新東棟2階 総合研修室
申込締切 第1回 平成29年6月6日(火)~6月20日(火) 必着
第2回
受講料 5,000円(資料代)
対象 次の①、②のいずれかの要件を満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者
①県内の居宅介護支援事業所・介護保険施設等に勤務する介護支援専門員
②県内の医療・福祉機関・介護保険施設等で地域連携・相談業務を行っている者

がん医療従事者研修会

開催日 平成29年7月11日(火)
時間 19:00~20:30
場所 中央棟2階 講堂
テーマ 『肝がん診療における最新のエビデンス』
総合司会 副院長/板本 敏行
座長 消化器センター消化器内視鏡外科部長/中原 英樹
講師 演題1 『診断・軽皮の穿刺治療』
消化器センター消化器内科部長/北本 幹也
演題2 『肝切除』
消化器センター消化器・乳腺外科部長/大下 彰彦
演題3 『経肝動脈的治療』
放射線診断科部長/黒瀬 太一
対象 医療従事者及びその関係者
問合せ 総務課管理係(担当:種本)
☎082-254-1818 内線(4271)

問合せ先 広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室
※詳細は『広島がんネット』ホームページでご確認ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/>

皮膚科からのお知らせ

7月より火曜日の診察は、終日手術日となります。皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

各領域の専門家の連携による治療方針の決定

集学的治療が必要な症例の診断や治療の方針決定に関しては、各領域の専門家が参加する呼吸器センターの検討会で相談し決定しています。



カンファレンスの様子

迅速かつ精密な病理診断・分子病理診断

肺がんの確定診断等には気管支鏡検査・CT ガイド下生検・リンパ節生検・外科的生検などから、臨床研究検査科と連携して施行しております。



治療待ち時間の短縮

当センターでは治療待ちの期間はできる限り短縮するように心がけております。

治療・検査内容	待ち時間
気管支鏡検査	1週間以内
CT下生検	
化学療法	診断確定後1週間以内
放射線療法	
放射線化学療法	診断確定後2週間以内
手術	
抗線維化薬	診断確定後3日以内
ステロイド治療	
生物学的製剤	

臨床試験・臨床治験

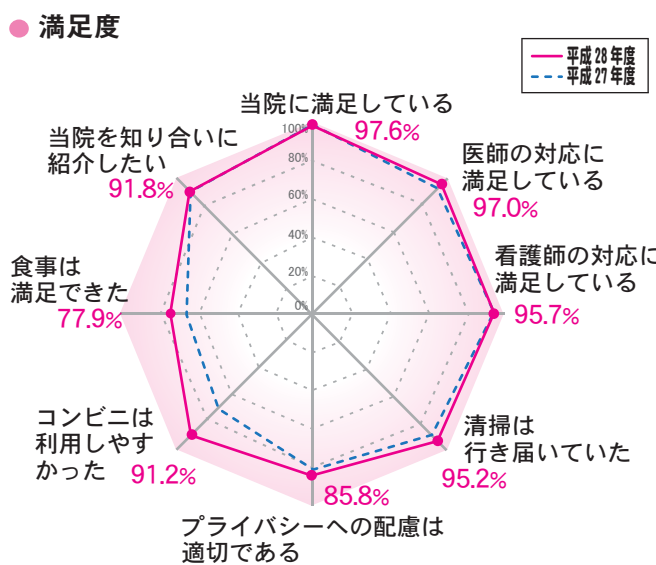
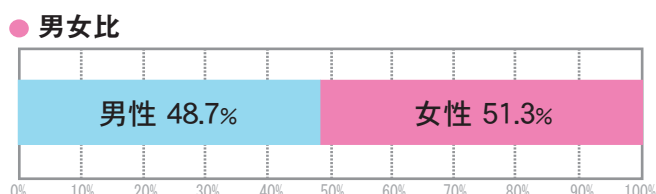
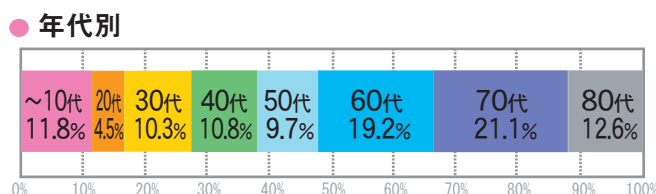
難治性疾患に関する様々な研究グループの臨床試験に積極的に参加することによって、最先端の治療を行い、難治性呼吸器疾患の治療成績を向上させることを心がけています。

患者さん満足度

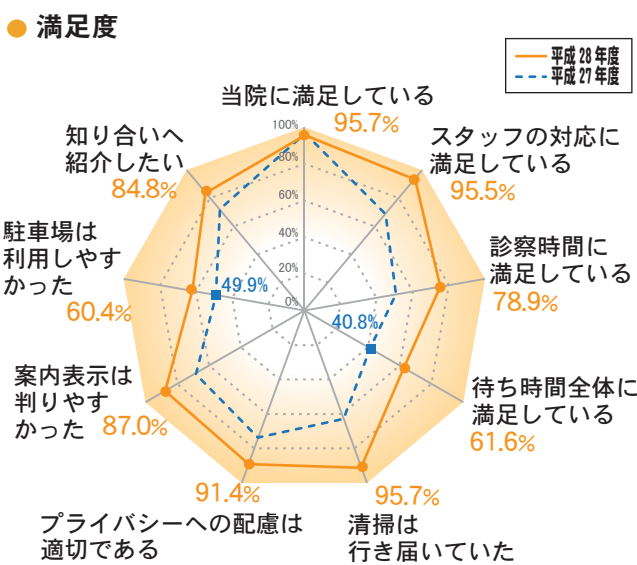
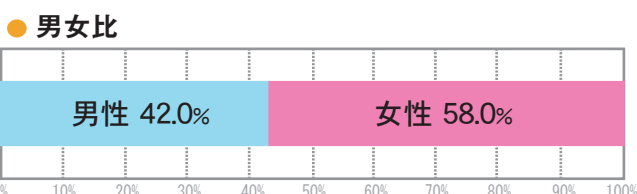
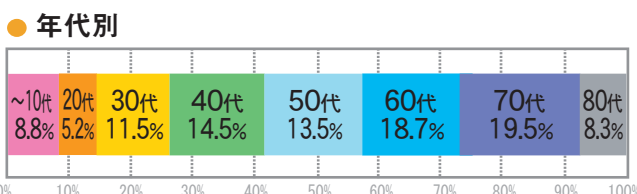
アンケート調査の報告

当院では毎年1回、入院患者さん及び外来患者さんに満足度調査を実施しています。多数の患者さんに御協力を頂き、誠にありがとうございました。その結果をお知らせいたします。尚、今後ともお気づきの点がございましたら、院内常設のご意見箱へお寄せ下さい。

入院 ● 調査期間：平成29年1月
● 調査母数：384人



外来 ● 調査期間：平成29年1月
● 調査母数：2,466人



- ◎ 総合満足度は、入院97.6%、外来95.7%と昨年に引き続き高い評価でした。
- ◎ 待ち時間全体の満足度は61.6%であり、昨年の40.8%から大きく増加しました。今後とも、患者さんの満足度の向上のために、予約枠の見直しなど、待ち時間の改善に取り組んでまいります。
- ◎ 駐車場の満足度は60.4%であり、昨年の49.9%から増加しましたが、駐車場が狭い、混雑しているなどのご意見がありますので、引き続き駐車場の改善に取り組んでまいります。また、**当院とイオン宇品店の間を無料送迎バスを運行しておりますのでどうぞご利用下さい。**

イオン宇品店の駐車場が無料でご利用になれます！

- 無料送迎バス 1日 23往復(所要時間：約5分)
- 8:30～15:30まで(5分間隔)
- 月～金曜日(土・日・祝日・12月29日～1月3日は運休)



外科医の独り言 no.69

主賓の挨拶

この原稿を書いている今日の午後、県病院の若手外科医の結婚式があります。新郎の上司という立場上、主賓の挨拶を依頼されています。一方で、この「外科医の独り言」の締め切りが迫っており、さて何を書こうかと悩んでいます。まあ、いつものことで、締め切り間際になっても筆が進まず苦勞していますが、今回は良い事を思いつきました。主賓の挨拶を書こう、そうすれば挨拶の流れを整理できて一挙両得だと考えたのです。

新郎は、医師国家試験に合格後、県病院での2年間の初期研修を修了して、この4月から私どもの外科でレジデント(後期研修医)として働き、外科医としてのキャリアをスタートしました。最近、外科医を志す若手医師が減少し、外科医は絶滅危惧種であると、以前このコラムでも書きましたが、そのような状況の中で良くぞ外科を選択してくれたと感謝の気持ちでいっぱいです。外科医を志す人が少なくなった原因に関しては、幾つか思い当たる節があります。最近よく耳にする「働き方改革」、「ワークライフバランス」、「プレミアムフライデー」という言葉は、われわれ歳を取った外科医には異国の言葉のように感じます。特に、金曜日の午後は1週間の中でも緊急手術が最も多い時間帯です。そのように働く先輩外科医を見て、若手医師は外科を「ブラック」と認識するのかもしれませんが、もちろん、私も管理者として医師の負担軽減を考えていないわけではありません。しんどい時には休みなさいと言っても、当の私が休みを取らなければ休みを取る雰囲気ではないことも承知しています。

一方で、外科医の教育も私の大事な仕事です。普通にできることをいくらやらせても教育にはなりません。できることより一歩上のできない事をやらせないと進歩しません。「それはでき

ません」と言われて、ハイそうですかで終わってしまうと成長が止まってしまう。すなわち、一定の負荷をかけてやらないと成長しません。この負荷をかけてやることをバフハラと思われなくするための工夫が必要です。教育とバフハラは紙一重なのかもしれません。

私が大事にしている言葉の一つに「臨機応変」という言葉があります。もちろん、確固たる信念を持ってやり続けることも大事です。しかし、医療現場での常識は、5年もたつと約半分は非常識になるとも言われており、日々新しい情報が入ってきます。私のように歳を取ってくると、動脈硬化が起こると同時に態度の硬化が起こってきます。一度部下の前で言ったことを撤回するのに大変勇気がいります。それを押し通すために、たまに屁理屈を言うこともあります。手術に際しては、「臨機応変」は患者さんの安全を守る大事な資質です。「臨機応変」という技を身に付けさせることも大事な教育です。

さて、当院の外科では、いろいろ理由をつけては飲みに出ることがあります。まあ、いわゆるガス抜きです。手術が遅くなって、先輩外科医師から「食べに(飲みに)行くぞ」と突然誘われることもよくあると思います。そこで、新婦にお願いがあります。そのような時には、できれば臨機応変に対応して頂ければ幸いです。もちろん新郎には、新婦の出方をよく観察して臨機応変に対応するよう指導しておきます。

T君、Mさん、そしてご両家の皆様、このたびはご結婚おめでとうございませぬ。粗辞ではございませぬが、私の挨拶とさせていただきます。うん、完璧じゃ！



副院長(消化器センター・消化器・乳腺外科主任部長) 板本 敏行(いたもと としゆき)

広報誌もみじ

おかげ様で100号を迎えました!!

バックナンバーはHPからご覧になれます

2003年から発行しております当院の広報誌「もみじ」が創刊14年を迎え、今号で100号となりました。不定期発行ではじまった広報誌ですが、2010年11月から毎月発行となり、今日まで続いております。広報誌は各部署から選ばれた12人で作成しています。これまでに患者さんや連携病院の方から沢山の御褒めのお言葉をいただきました。これからも皆様に親しんで頂ける広報誌づくりを目指して、地域のお役にたてる情報を発信してまいります。



『外科医の独り言』連載開始

創刊号(2003年) 19号(2010年) 32号(2011年)